

AIM Commons における広報活動報告

甲斐 晶子[†]

抄録 情報メディアセンターでは、ITに特化した学習用の施設およびそれに付帯するサービスとして AIM Commons を運用している。AIM Commons における学生の発展的な学びを促進するため、2022 年度より相模原キャンパス学生スタッフが主体となり施設やサービスの広報動画を作成・公開する活動を開始した。本稿では、その運用の報告をする。

キーワード : AIM Commons, ラーニングコモンズ, スチューデントジョブ, Work Integrated Learning, Capstone Project

1. 背景

AIM Commons とは、青山学院大学附置情報メディアセンターに属する、ITに特化した学習用の施設およびそれに付帯するサービスの総称である。青山キャンパス 2 号館（213, 214, 215, 224 教室）および相模原キャンパス B 棟（422 教室）には学生の発展的・能動的な学びを支援するラーニングコモンズとして、可動式の机、ソファ席、プロジェクター、ホワイトボード等が備え付けられている。声を出しての学習活動を奨励しており、小グループでのディスカッションやプレゼンテーションの場として利用できる（図 1）。

同施設では 2017 年度より PC ノートの貸出運用を開始しており、2021 年度からは自動貸出ロッカーを導入、2022 年度からは 4K ビデオカメラやデジタル一眼カメラ、ワイヤレスカメラといった映像収録機器を十分に試用できる「映像収録機器貸出サービス」、高性能デスクトップ PC で Adobe Creative Cloud 等の利用ができる「動画編集ブース貸出サービス」、クローズドな環境で声を出して学習できる「静音環境貸出サービス」（相模原キャンパスのみ）を提供開始した。また、情報発信スキルの獲得を支援するために学生スタッフを雇用しており、貸出機器やソフトウェアの操作に関する質問に対応している。これらの施設・サービスについて学内における認知度は低く、情報メディアセンター（AIM）ウェブサイトからの発信、大学案内等への掲載は行っていたものの、共同学習の場や支援を求める学生に情報が届いていない可能性が指摘された。そこで、学生への認知向上を目的とし、広報活動を行なった。相模原キャンパスにおける活動を報告する。



図 1 AIM Commons（相模原）

2. 方法

AIM Commons（相模原）に所属する学生スタッフが主体となり、同施設やサービスについて紙媒体および動画による情報提供活動を行なった。施設運営責任者である筆者は彼らの活動を背後から支援し、また、学内での撮影許可申請や公開申請等の庶務に努めた。

2.1 紙媒体による情報提供

紙媒体として作成し掲示・配布する形態で行った広報について述べる。AIM Commons の施設紹介パンフレットを作成し、B422 内の受付デスクおよび廊下側扉へ常備、また期間限定で B 棟入口に学生スタッフ募集看板と合わせて設置した。また、静音ブース、機器貸出、後述する YouTube 動画についてそれぞれポスターを作成し、AIM Commons 周辺や学生食堂への掲示を行なった。廊下設置の自動貸出ロッカーから AIM Commons へ誘導するためのポスターも作成・掲示した。その他、教職員から学生への情報伝搬を期待し、教職員ポータルからの発信、キャンパス利用委員会での案内、講師控室、学務課への情報提供を行なった。

[†] 青山学院大学附置情報メディアセンター

2.2 動画による情報提供

動画による情報発信について述べる。学生スタッフ達からは、学内ポータルサイト「AOYAMA-portal」をはじめとする公式の情報提供は、その量の多さから見落としが多く発生している可能性が指摘された。また、来室に対する心的障壁を緩和するため、設置場所や実際の雰囲気動画を定期的に発信することが提案された。そして、学生スタッフの一人が発起人となり、2022年5月より「利用者爆増プロジェクト」と称する8名のプロジェクト（後期より10名に増員）が立ち上がり、一連の動画制作を行った[1]。彼らが作成した動画のタイトル、公開日、本稿執筆時点の視聴数を表1に示す。これらの動画はポスターや「AOYAMA-portal」で周知し、閲覧を呼びかけた。

表1 2022年度公開の広報動画一覧

	タイトル	公開日	視聴数
1	知ってる？ラーニングコモンズ (AIM Commons)	07/14	479
2	どこにあるの？ラーニングコモンズ (AIM Commons)	07/27	452
3	ラーニングコモンズ (AIM Commons) 機材の予約方法	10/03	282
4	ラーニングコモンズ (AIM Commons) のワークショップをご紹介します	12/15	146
5	ラーニングコモンズ (AIM Commons) 静音ブースの使い方	12/15	442
6	iPadでノートをとってみよう-前篇	01/19	446
7	iPadでノートをとってみよう-後篇	01/19	97
8	【重要】青学・卒業生注意！卒業式当日にメールが消える！？	02/15	225

3. 結果

3.1 利用人数の変化

AIM Commons は開かれた施設として厳格な入出場管理を行っていないが、2022年度より利用者数の動向を把握する目的で、在室者数の定時観測を開始した。2022年前期および後期の曜日・時間帯別平均座席占有率(%)は前期（平均18.9, SD 11.37, 最大41.9, 最小1.1）、後期（平均27.29, SD 14.85, 最大57, 最小1.1）出会った（図2）。なお、感染症拡大防止策として本来の席数54の半数を定員としている。因果関係は断定できないものの、利用者数には増加の兆しがみられ、広報活動が認知向上に正の影響を与えた可能性がある。

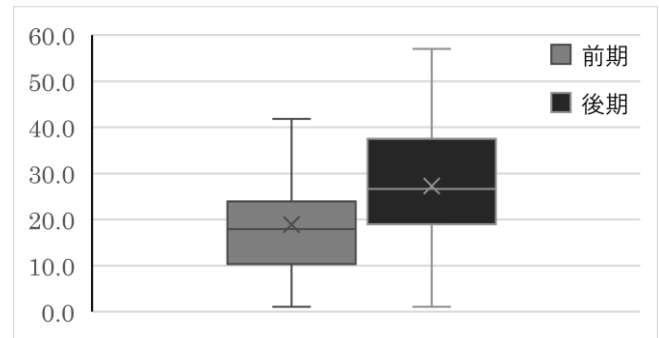


図2 2022年度平均座席占有率の変化 (%)

3.2 学生スタッフの変化

関わった学生スタッフには制作に自信を表明する者が多かったが、初期には手近なテンプレートの流用が多く観察され、構成意図や著作権の所在が説明できない者、また、異なる時間帯に勤務するスタッフとの意思疎通や業務分担に困難を感じる者がいた。それらについて就職後を見据えた業務遂行スキルの獲得を意識するよう随時指導を行い、定例会議や振り返りの場を設けた。現在は非同期型業務や各種権利への配慮、SEO対策等について積極的に相談し、教え合い、待機時間に自律的に学習する等の成長が垣間見えている。

4. おわりに

以上、2022年度に開始した広報活動について報告した。より多くの必要とする学生に利用されるよう周知を継続する。また、学生スタッフにとってこれらの活動は有償労働として制作スキルを発揮し、同時に提案力、調整力、責任感等の労働市場で求められる能力を向上させる機会となる。学生を対象とした就労体験の場としては企業によるインターンシップや学科等によるキャップストーンプロジェクト、WIL (Work Integrated Learning) 等があるが、それらは就職内定や成績等に影響するため精神的な圧迫を感じる学生も多い。本施設が一般利用者にとっても学生スタッフにとってもメディア活用力のびやかに発揮でき、ともに成長する場所となるよう、引き続き運営を行う。最後に、本活動に貢献している「利用者爆増プロジェクト」メンバーを含む全学生スタッフに敬意と感謝を表す。

参考情報

- [1] 「青山学院大学情報メディアセンター - YouTube」. <https://www.youtube.com/@agu-aim> (参照 2023年3月14日).